

(5) 英語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

— 評価の観点 —
 表 現：表現の能力
 理 解：理解の能力
 言・文：言語や文化についての知識・理解

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)		
聞くこと	1	(1)	How are you today? に対して正しく応答できる。	理解	90.0	87.5	
		(2)	orを用いた疑問文に正しく答えることができる。	理解	60.0	37.7	
		(3)	お祝いの言葉に対して正しく応答できる。	理解	80.0	93.3	
	2	(1)	まぎらわしい数字の発音の聞き分けることができる。	理解	75.0	79.2	
		(2)	物や人の場所を聞き分けることができる。	理解	70.0	53.3	
		(3)	鳥の数やそれらの大小を聞き分けることができる。	理解	80.0	93.5	
		(4)	友人の特技を聞き分けることができる。	理解	80.0	97.2	
3		まとまりのある英文を聞いて概要を理解できる。	理解	50.0	78.8		
書くこと	4	(1)	適切なbe動詞を書くことができる。	言・文	60.0	65.1	
		(2)	三人称・単数・現在形の文を書くことができる。	言・文	50.0	44.4	
		(3)	過去進行形の文を書くことができる。	言・文	60.0	32.7	
		(4)	不規則動詞過去の肯定文を書くことができる。	言・文	40.0	59.7	
読むこと	5	(1)	まとまりのある英文を読んで詳細を把握できる。	理解	80.0	70.5	
		(2)	まとまりのある英文を読んで要点を把握できる。	理解	60.0	85.9	
		(3)	まとまりのある英文を読んで要点を把握できる。	理解	60.0	69.8	
		(4)	まとまりのある英文を読んで詳細を把握できる。	理解	60.0	38.2	
	6	(1)	対話文を読んで詳細を把握できる。	理解	70.0	73.9	
		(2)	対話文を読んで詳細を把握できる。	理解	70.0	91.4	
書くこと	7	(1)	対話に合うWhat＋名詞の語順の文を書くことができる。	表現	50.0	22.5	
		(2)	対話に合うWhatを用いた過去進行形の文を書くことができる。	表現	50.0	53.5	
		(3)	ofを使った文を書くことができる。	表現	50.0	48.0	
読むこと	8	①	(1)	場面に合う適切な英文を選ぶことができる。	理解	60.0	52.8
			(2)	場面に合う適切な英文を選ぶことができる。	理解	70.0	64.6
		(2)	場面に応じた対話の流れを理解することができる。	理解	50.0	61.5	
書くこと	9	(1)	Whereを用いて日本語に合う英文を書くことができる。	表現	40.0	25.9	
		(2)	Howを用いて日本語に合う英文を書くことができる。	表現	30.0	29.7	
		(3)	How manyを用いて日本語に合う英文を書くことができる。	表現	30.0	27.7	
	10		指示に従って、まとまりのある英文を書くことができる。	表現	30.0	30.4	

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内					
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡			
1	(1)	How are you today? に対する対応	90.0	88.7	88.6	89.6	84.7	85.3	81.6	85.8	
	(2)	orを用いた疑問文への応答	60.0	35.9	36.0	35.3	39.2	40.3	37.8	38.8	
	(3)	お祝いの言葉に対する対応	80.0	93.6	93.6	93.0	93.5	92.8	93.1	94.3	
2	(1)	まぎらわしい数字の発音の聞き分け	75.0	76.9	77.0	75.1	81.7	82.7	78.9	82.1	
	(2)	物や人の場所の聞き分け	70.0	54.3	53.6	62.7	57.7	59.5	57.6	56.0	
	(3)	動物の数やそれらの大小の聞き分け	80.0	94.3	94.2	95.5	94.6	94.6	94.7	94.5	
	(4)	友人の特技の聞き分け	80.0	97.8	97.8	97.0	97.6	97.4	97.0	98.1	
3		まとまりのある英文の概要理解	50.0	80.3	80.2	81.1	79.2	80.7	76.3	79.2	
4	(1)	適切なbe動詞	60.0	71.0	71.2	69.2	63.8	64.6	72.0	58.6	
	(2)	三人称・単数・現在形の文	50.0	50.7	49.9	61.7	56.6	58.8	55.9	54.8	
	(3)	過去進行形の文	60.0	37.3	37.8	31.3	27.5	30.6	27.0	24.8	
	(4)	不規則動詞過去の肯定文	40.0	73.2	73.5	69.7	50.8	51.0	56.6	47.5	
5	(1)	まとまりのある英文を読んでの詳細把握	80.0	75.8	75.8	75.1	68.9	69.7	71.1	66.9	
	(2)	まとまりのある英文を読んでの要点把握	60.0	88.1	88.0	89.1	85.0	85.3	86.8	83.7	
	(3)	まとまりのある英文を読んでの要点把握	60.0	75.1	75.0	76.6	68.7	70.9	72.0	64.8	
	(4)	まとまりのある英文を読んでの詳細把握	60.0	41.7	41.8	40.3	37.1	31.0	39.8	41.8	
6	(1)	対話文を読んでの詳細把握	70.0	78.4	78.7	74.6	72.2	70.9	72.0	73.7	
	(2)	対話文を読んでの詳細把握	70.0	92.1	92.1	92.0	90.7	89.3	91.8	91.5	
7	(1)	対話に合うWhat+名詞の語順の文	50.0	28.8	27.7	42.3	17.5	19.8	18.8	14.6	
	(2)	対話に合うWhatを用いた過去進行形の文	50.0	63.6	64.1	58.2	49.8	52.4	49.3	47.5	
	(3)	of を使った文	50.0	53.7	54.5	43.3	38.6	41.0	37.8	36.6	
8	(1)	①	場面に合う適切な英文の選択	60.0	62.4	62.7	59.2	48.6	48.2	48.0	49.4
		②	場面に合う適切な英文の選択	70.0	71.7	71.9	68.7	63.4	62.5	63.2	64.3
	(2)	場面に応じた対話の流れの理解	50.0	63.5	63.5	62.7	59.9	62.3	64.1	55.3	
9	(1)	Whereを用いた日本語に合う英文	40.0	39.9	40.4	34.3	19.4	21.0	23.0	15.9	
	(2)	Howを用いた日本語に合う英文	30.0	43.4	43.9	37.8	26.5	24.2	30.3	26.9	
	(3)	How manyを用いた日本語に合う英文	30.0	45.6	46.2	37.8	24.0	26.6	24.3	21.3	
10		条件に合うまとまりのある英文	30.0	39.9	40.3	34.3	26.2	27.1	28.3	24.1	
教 科 全 体			59.1	64.9	65.0	63.8	58.0	58.6	58.9	56.9	

(単位：%)

中 南 管 内					上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
弘前市	黒石市	平川市	中・南郡		十和田市	三沢市	上北郡		むつ市	下北郡		八戸市	三戸郡		
89.0	87.8	94.1	91.0	86.1	87.8	89.4	88.6	86.4	78.0	76.7	83.0	88.5	87.9	90.5	87.5
44.0	43.1	51.3	41.4	41.6	37.7	34.9	35.4	40.5	36.9	37.0	36.6	33.6	34.7	29.7	37.7
92.4	91.4	95.6	91.6	94.1	93.9	93.7	94.3	93.9	93.0	93.4	91.5	93.5	93.4	93.5	93.3
77.5	75.2	86.4	76.0	78.9	79.3	80.8	81.0	77.5	75.1	75.3	74.5	82.4	83.8	77.8	79.2
33.3	30.7	42.1	38.3	25.4	60.1	62.9	67.6	54.8	49.6	48.9	52.3	60.4	61.5	56.6	53.3
90.1	89.3	92.8	92.5	87.8	94.9	95.9	96.7	93.3	90.3	89.9	91.5	95.1	95.3	94.6	93.5
95.4	94.3	98.2	95.3	97.0	97.6	97.9	97.4	97.4	96.9	97.3	95.4	97.9	98.0	97.3	97.2
78.2	77.2	82.8	78.5	76.9	78.5	79.5	81.8	76.1	76.4	77.5	71.9	78.8	78.5	79.6	78.8
67.4	68.4	73.1	57.3	65.3	65.9	66.8	68.7	63.9	53.0	56.7	38.6	60.9	62.4	55.7	65.1
39.6	37.4	59.2	29.6	35.3	48.0	54.0	48.4	44.0	27.8	29.5	21.6	38.2	39.7	33.3	44.4
37.5	38.5	35.9	32.4	39.6	26.5	30.3	26.9	23.8	24.2	27.4	11.8	33.2	34.1	30.0	32.7
62.5	62.4	64.6	62.3	60.4	53.4	53.7	56.9	51.6	44.9	47.5	34.6	57.1	54.7	65.2	59.7
67.3	67.6	65.4	68.2	67.0	71.5	75.4	73.3	68.0	65.3	66.8	59.5	69.9	69.8	70.0	70.5
84.9	84.1	84.4	89.7	84.8	86.4	87.1	85.1	86.6	80.8	82.6	73.9	86.0	86.7	83.5	85.9
66.5	65.8	65.6	69.8	67.3	69.4	72.2	71.6	66.6	61.1	62.2	56.9	70.5	70.3	71.0	69.8
34.8	36.8	31.5	35.2	28.4	40.9	47.3	33.3	40.3	29.3	31.0	22.9	38.7	37.0	44.6	38.2
68.6	67.6	71.3	70.1	68.0	75.2	79.5	75.7	72.2	71.6	72.9	66.7	74.6	74.9	73.6	73.9
90.3	89.5	92.6	90.0	91.7	92.6	92.7	94.1	91.8	90.1	91.1	86.3	91.6	91.5	91.9	91.4
30.3	30.5	31.0	21.2	38.0	20.9	24.6	20.1	18.9	12.0	11.4	14.4	16.1	13.3	25.7	22.5
51.8	54.5	55.4	39.6	47.2	50.1	48.4	52.1	50.2	41.4	44.6	28.8	52.7	55.0	45.0	53.5
59.0	61.1	52.6	57.3	58.7	39.7	43.0	46.0	34.6	35.1	38.0	24.2	46.8	46.9	46.4	48.0
41.4	42.0	43.6	37.4	40.3	54.3	55.9	54.3	53.3	46.6	47.7	42.5	56.3	56.3	56.3	52.8
56.8	56.3	60.8	54.2	56.8	64.8	66.8	67.2	62.3	59.9	61.5	53.6	66.6	68.0	61.6	64.6
55.9	55.8	56.9	58.3	52.1	62.9	65.4	64.8	60.3	54.7	57.4	44.4	65.9	67.5	60.5	61.5
27.1	28.1	25.6	19.0	32.3	21.3	24.1	24.1	18.1	13.2	13.6	11.8	21.6	20.4	25.7	25.9
22.8	25.0	26.2	11.5	19.5	29.8	31.3	32.4	27.7	16.2	17.5	11.1	27.7	26.2	32.7	29.7
22.2	23.7	23.8	13.7	21.1	21.4	25.7	23.4	17.7	13.8	14.8	9.8	25.3	23.3	31.8	27.7
29.6	30.7	29.2	23.7	31.0	28.1	29.4	32.2	25.3	18.6	19.4	15.7	28.9	28.5	30.2	30.4
57.9	58.0	60.4	55.2	56.9	59.0	61.0	60.5	57.0	52.0	53.2	47.3	59.2	59.3	59.1	59.6

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
聞くこと	8	1(1)、1(3)、 2(1)、2(3)、 2(4)、3	1(2)	77.7	73.1
読むこと	9	5(1)、5(2)、 6(1)、6(2)	5(4)	67.6	64.4
書くこと	11		4(2)、4(3)、 7(1)、7(3)、 9(1)、9(2)、 9(3)、10	40.0	44.5

内容・領域別にみると、県の平均通過率と比較して通過率が高かったのは、「聞くこと」、「読むこと」であり、低かったのは、「書くこと」である。

設定通過率と比較すると、どの内容・領域も同程度であった。

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
表現の能力	7		7(1)、7(3)、 9(1)、9(2)、 9(3)、10	34.0	40.0
理解の能力	17	1(1)、1(3)、 2(1)、2(3)、 2(4)、3、 5(1)、5(2)、 6(1)、6(2)	1(2)、5(4)	72.3	68.5
言語や文化 についての 知識・理解	4		4(2)、4(3)	50.5	52.5

観点別にみると、県の平均通過率と比較して通過率が高かったのは、「理解の能力」であり、低かったのは、「表現の能力」、「言語や文化についての知識・理解」である。

設定通過率と比較すると、同程度だったのは、「理解の能力」、「言語や文化についての知識・理解」であり、下回ったのは、「表現の能力」である。

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)	
4	(2)	44.4	50.0	play(25.5)、is(20.0)、playing(2.0)
	(3)	32.7	60.0	studied(19.5)、study(18.0)、studied(6.0)、studing(5.0)
7	(1)	22.5	50.0	What do you like sports?(72.5)、Do you like what sports?(5.0)
9	(1)	25.9	40.0	無答(15.5)、Where were you live?(13.0)、疑問詞違い(4.5)、do you(4.0)
	(2)	29.7	30.0	疑問詞違い(26.0)、How are you coming?(4.0)、無答(14.5)
	(3)	27.7	30.0	How manyなし(29.0)、無答(24.0)、How many～bird?(4.5)
10		30.4	30.0	3文書いているが、どこかに間違いがあるもの(37.5)、1～2文のみ書いているもの(25.5)、無答(13.5)

● 4(2)について

昨年度とほぼ同様の出題であったが、通過率は上がっていることから、指導の成果が現れていると考えられるため、今後も指導の継続が望まれる。

誤答の原因として、三人称単数現在のsが欠落している「play」と解答したものが25.5%と多かったことから、sheが三人称であることの理解が不十分であることが考えられる。また、be動詞の「is」と解答したものが20.0%あったことから、主語が三人称であることは理解しているものの、be動詞と一般動詞の使い分けを十分理解していないことが考えられる。

● 4(3)について

誤答として、「～していました。」という日本語に対して「studied」(19.5%)、「study」(18.0%)が多かったことから、進行形の理解が不十分であることが考えられる。また、「studied(6.0%)」「studing」(4.5%)など、studyの活用に関わるつづりの誤答が見られた。

● 7(1)について

設定通過率50.0%に対して、通過率22.5%とその差が最も大きかった問題である。誤答の主なものとして、「What do you like sports?」と解答したものが72.5%と多かったことから、「疑問詞+名詞」の文構造の理解が不十分であることと、言語活動を通じた習熟が十分に行われていないことなどが考えられる。また、「Do you like what sports?」と解答したものが、5.0%あることから疑問詞の用法の理解が不十分であることが考えられる。

● 9(1)について

誤答の主なものとして、「were you live」(13.0%)、「無答」(15.5%)が挙げられる。時制を理解しているものの、be動詞と一般動詞の使い分けを理解していないことが考えられる。また、疑問詞の間違い「How、When、What」(4.5%)と「疑問詞なし」(2.0%)の誤答から、疑問詞の用法の理解が不十分であることが考えられる。

● 9(2)について

誤答の原因として、「What」、「Where」を使って解答したものが26.0%あり、手段・方法を尋ねる「どうやって」を表現する疑問詞Howの用法の理解が不十分であると考えられるとともに、習熟のための言語活動の不足が考えられる。

● 9(3)について

昨年度に引き続きHow manyについての出題だったが、通過率は上がっていることから、指導の成果が現れているため、今後も指導の継続が望まれる。

誤答例として、「How manyの欠落」、「How many～bird(s)」があり、数を尋ねる表現の理解と言語活動を通じた習熟が十分でないことなどが考えられる。

● 10) について

昨年度に続き、まとまりのある文を書く力を見るため3文を書く問題とした。今年度は手がかりとなるメモの内容を「単語」ではなく、具体的な「文」にしたことにより、通過率は30.4%と昨年度の17.0%に比べ大幅に上がっている。また、3文中2文正解が、昨年度の12.5%に比べ15.5%と上がっている。さらに、誤答だったが3文書いている割合が37.5%と英文を書こうとする意欲が見られた。

誤答の原因としては、他の「書く力を見る」問題の誤答例と同様に、三人称単数現在形のsの欠落、be動詞と一般動詞の混在が多く見られた。また、aやtheの欠落等の冠詞及び複数形の間違ひが多く見られた。さらには、「dog→bog」や「big→dig」に見られるように、bとdの区別が不十分な誤答もあった。文構造の理解を図った後も、習熟のために繰り返し練習したり、書いたりする活動が不足していることが考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別にみた課題は「書くこと」で、評価の観点別にみた課題は、「表現の能力」と「言語や文化についての知識、理解」である。また、設定通過率との比較からみた課題も、「書くこと」及び「表現の能力」となっている。これは、例年と同様の課題である。

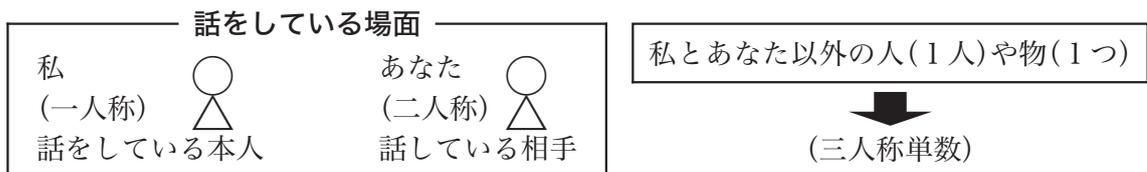
特に力を入れて指導し、定着を図りたいものとして、①三人称単数現在のs, es ②進行形のingの付け方、③5W1HのWhat + 名詞で始まる疑問文での尋ね方、④まとまった英文を書く力が挙げられる。④のまとまった英文を書くことができるようにするためには、①、②、③がしっかりと定着し、単文レベルの文を正確に言ったり、書いたりできるようになる必要がある。

そこで、①、②、③に限らず、文法事項の指導については、まず理解し、繰り返し練習することにより、自動的に口に出したり、書いたりすることができるようになる(習熟)まで指導をする必要がある。実際には、間違いなく言ったり書いたりするレベルまで指導されなかったり、指導が継続(繰り返し)されていない傾向がある。そこで、ここでは①は理解についてのアイデアを、②、③については習熟のためのアイデア例を挙げる。

① アイディア例 <主語が三人称単数であることと語尾変化 s, es について>

[説明を聞いて理解すること]

(ステップ1) まず、一人称、二人称とはどういうことかを押さえ、三人称を理解させる。



(ステップ2) 次に、三人称(単数・複数)に具体的にどんなものがあるか生徒に出させて、身の回りの具体的な語句によって確認する。

(例) 健、友達、猫、私の姉、君の父、あの本、角のコンビニ、など

(ステップ3) 語尾の変化について説明し、理解させる。

- (1) 主語が三人称単数 [私、あなた以外で一人(単数)] の時、動詞にsが付く。
play → () like → () practice → () enjoy → ()
- (2) 主語が三人称単数 [私、あなた以外で一人(単数)] の時、動詞にesが付く。
watch → () catch → () study → ()
- (3) 主語が三人称単数 [私、あなた以外で一人(単数)] の時、have が has になる。
have → ()

※ s, es の発音も指導する。

② アイディア例

〈現在進行形の動詞の変化について習熟させるための活動について〉

〔話すこと→聞くこと→書くこと〕

使用する状況とbe動詞+動詞ingについて理解している前提で、習熟させる活動例。

- ・ペアでのゲーム、時間10分。
- ・ゲームの進め方：現在進行形を正しく言いながら、相手の選択したものを先に言い当てる。早く終わったら、何回でも繰り返す。

使用するシート

Super Maze

My friend	enjoy	basketball
You	watch	tennis
He	play	kendo
I	practice	baseball

シートの下之余白部分はココ！

生徒A 生徒B

My friend	enjoy	basketball
You	watch	tennis
He	play	kendo
I	practice	baseball

シートの下之余白部分はココ！

【実際の例】（お互い相手がどこに○を付けたかわからない。見ていない。）

- A : My friend is enjoying basketball. B : One, OK. (生徒Bのbasketballに○が付いている)
- B : He is playing tennis. A : Two, OK. (生徒Aのplayとtennisの2個になる)
- A : You are watching tennis. B : Zero, OK. (生徒Bの○に1個もあてはまっていないので0個)
- B : I am playing tennis. A : Two, OK. (生徒Aのplayとtennisの2個になる)
- A : He is playing kendo. B : One, OK. (生徒Bのplayに○が付いている)
- B : My friend is playing tennis. A : Three, OK. (生徒Aの○3つを言い当てたので) Bの勝ち

時間内であれば、各自の○を変えて、再び始める。

最後に、口にして練習した英語を文字にして確認する。(シートの下之余白部分に書く)

③ アイディア例

〈疑問詞+名詞の疑問文に習熟させるための活動について〉

疑問詞の使用場面と疑問文?の形について理解している前提で習熟させる活動例。

- ・クラス全体で行う。時間15分。
- ・活動の進め方：友達にインタビューしたり答えたりして、最後に友達のことを英語で発表する。

使用するシート

Interview

Question	Name1 Ken	Name2 ○○	Name3 ○○	自分のこと
What Japanese food do you like?	すし			すきやき
What subject do you like?	英語			体育
What sport do you like?	野球			サッカー
What TV program do you like?	サザエさん			笑っていいとも
What fruit do you like?	りんご			洋なし

シートの下之余白部分はココ！

- A : What Japanese food do you like, Ken ? B : I like sushi. (Kenのところに“すし”と記入)
- What subject do you like? I like English. (Kenのところに“英語”と記入)
- What sport do you like ? I like baseball. (Kenのところに“野球”と記入)
- What TV program do you like? I like Sazaesan. (Kenのところに“サザエさん”と記入)
- What fruit do you like? I like apples. (Kenのところに“りんご”と記入)

シートの下之余白部分に紹介文を記入する。

Ken likes sushi. He likes English. He likes baseball. He likes Sazaesan. And he likes apples.
What animal do you see?, What color is this?, How many bears are there? などの表現は

小学校外国語活動で教師からの発話として何回か聞いてきているものである。児童が使用して慣れ親しんでいる表現ではないが、記憶に残っている可能性もあることを押さえて指導ができるとより効果的であると考えられる。

コミュニケーションを図るための活動は大事であるが、そのための基になる文法事項の理解と習熟のための練習も重要である。この練習を十分に行った上で、コミュニケーション活動を充実するように授業を組み立てることが大切である。

質問紙調査の結果によると、前回の平成20年度の調査と比較して、「ほとんど分からない」「分からないことが多い」と回答した生徒はそれぞれ6.3%→5.7%、16.7%→15.9%、と減少している。また、「英語の勉強は大切だ」と感じている生徒も「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が70.5%→77.7%に増加しており、先生方の地道な努力が結実しつつあると思われる。時代の要請もあり、うまく生徒のモチベーションの高揚を図りたいところである。

指導のポイント

〈新学習指導要領を意識した授業のために〉

昨年度も、新学習指導要領の円滑な導入に向けた留意点を述べたが、全面実施を来年度に控え、要点を再度確認したい。

① 繰り返し指導の大切さ

3年間を通じて、大事な部分については計画的に繰り返して指導することが大切である。

② 効果的な文法指導の工夫

相互に関連のある文法事項についてはより大きなカテゴリーとして整理し理解させることが大切である。

③ 小学校との情報交換・交流等の大切さ

中学校教員は、外国語活動の指導において、養われた素地をどのように中学校の英語学習に生かしていくかを工夫することが必要である。

④ 語彙の充実

教科書で扱われる単語が1,200語程度のものに変わった際に、生徒に急激な負担が生じないように、語彙を計画的に増やす配慮が必要である。また、平成25年度から高等学校でも新指導要領が実施されるため、英語を使って進められる授業に慣れさせておく必要がある。

⑤ 主体的に英語学習（授業及び家庭学習）に取り組む意欲・態度の育成

「分かる授業」の実践を心がけ「分かる楽しさ」「できる楽しさ」を実感させることが大切である。上記のようなポイントを意識した授業を展開することで、生徒に基礎的・基本的な力を身に付けさせながら、コミュニケーション能力の基礎を養うことができる。

キ まとめ

「聞くこと」、「読むこと」については例年どおり、おおむね良好である。また、今年度も、まとまりのある英文を読んで要点を把握したり、流れを理解したりすることについて良い結果が出ている。ただ、「書くこと」については不十分な結果となった。まとまりのある英文を書く問題では、採点基準を昨年度と変更したため、単純に比較はできないが、英語を使って表現しようとする意欲は昨年以上に向上しているため、それを支える基本的な文法事項の定着が望まれる。コミュニケーション活動を行う際のわずかな工夫が定着に大きく関わるので、アイデア例を参考にしながら、年間指導計画を吟味して取り組んでもらいたい。

また、語彙指導については、県教育委員会で発行している「青森県版中学校英単語集」を、今年度はVersionⅢに改訂し、読めるようになってもらうためにネイティブスピーカーによる単語と例文の音声も収録してある。ぜひ、有効に活用して生徒の急激な負担増にならないように、計画的に取り組んでほしいと考えている。

学校における外国語教育の中で、コミュニケーション能力の素地を身に付けた児童を迎え入れ、コミュニケーション能力の基礎を身に付けた生徒を高等学校へ送り出す中学校の責任は大きい。外国語教育の転換期を前向きにとらえたいものである。